

- 環境と防災には重なっている部分があるはずで、コンパクトシティにして、外側に緑を増やし、そういったところにはいっそ人が住まないようすれば、そこは水浸しになっても良くなる。そうすると環境にも良いし、災害にも強い。そういった横断的に効果が出てくるような施策が検討のプロセスで十分吟味されているかどうか。他にも交通と都市計画は重なっているところがある。
- これからも複合的、横断的な問題に都市はぶつかっていくことがたくさんあるのではないかと。そうすると、それを受けて立つ組織というのがあっても良いのではないかと。
- 「市政運営の取り組み」を見ると、少し受け身な感じがする。新しいまちの展開をしていきますというアピールはないし、「情報発信・情報公開」とあるが、情報収集ということも、都市間競争を勝ち抜くようにするのなら、いろいろなところから情報を集めてくることを書かないといけないのではないかと。
- 本来10年の中だけでは都市は変わらないかもしれないが、先を見通した時に都市をどう作り変えていくか、ダイナミズムのようなものがまだ見えてきていない。
- 駅そば圏を出しているが、駅そば圏、コンパクトシティに作り変えていくプロセスとは、どのようなものなのか。その節目節目では何に留意をしながら何十年かのスパンで変えていくのだという動きが見えないので、全体として見た時に、これで名古屋はどのような都市にどう生まれ変わろうとしているかが見えにくい。
- 施策28には良質な住宅ストックとあるが、駅そば圏を実現しようとしたら、住む人が住宅をどう住み替えていくのか、若い世代が中心の高層マンションに入ったらずっとそこに居るのか、高齢夫婦世帯になったらどうなるのかといった流れの中で、どう都市を実現していくかを考えないと、個々の施策を足し合わせた時に都市がどう動くのか、どちらを向いて動くのかが見えない。
- 重点戦略と施策の関係性が見えてこない。重点課題にはリニアや南海トラフといった名古屋らしさが出てくる。その後に施策ページがあるが、この重点戦略の具体化されているものと施策が別々に出てきたという印象を受けざるを得ない。そのストーリーが繋がらないといけない。
- 重点戦略は子育てと災害、国際化の3本立てになっているにも関わらず、施策がそれに則っていない。これはこのままとしても、どちらから見てもきちんとたどれるような関係性がほしい。
- 例えば施策28の「良質な住まいづくりをすすめます」であれば、良質な住まいづくりが重点戦略の中のどこにつながるかというのを一々書いておく。良質な住まいを作っておけば、ある意味災害にも耐えられるし、子育てにも良いだろう、両方につながる。
- 1項目ずつについてどうつながるかということを、施策1個ずつからも上に上っていけるし、重点課題のここに効くというのが分かるし、逆に重点課題から見た時にも、ま

とめて南海トラフの関係を見ようとしたら、これとこれだと分かるようすると、つながるのではないかな。

○重点課題では名古屋をこうしていきたい、これに向かっていきたいというものが見えるが、施策45個並べてこれだけ見てみると、どこの都市なのか全然分からない。施策に名古屋らしさが見えてこないの、何か名古屋ならではのものを施策の方からも見せる努力が必要である。

○昔だったら総合計画の中で、基本構想は普通20年みていて、基本計画はその中の10年であった。だから、少なくとも20年先の都市像を描いて、そこへのプロセスとして10年間でここまで到達するということを示していた。

○今は10年から先はなかなか見通しにくい、本来ならもう少し先の名古屋をこのような都市にしたい、そのために20年、30年かけて大きく名古屋はこう都市を作り変えていくという大きな流れを示さないといけない。個々の事業は、毎年の予算などの制約が大きいので、むしろそこでは書けない名古屋の向かっている方向性を書いたらどうか。

○めざす4つの都市像が、さらに重点課題、重点戦略、施策とどう対応しているかが分からなくなる。4つの都市像はどう位置づけようとしているのか。少なくとも重点課題、重点戦略と、めざす4つの都市像の関係はどうなのか。

○重点戦略は今この時点から見るとこうだと言っていて、めざす4つの都市像は普遍的に都市が抱えるという意味か。20年までさかのぼったら違うかもしれないが、別は今とは限らず、10年前もこれだったし、特に名古屋ではないと言い切ってもいいぐらいではないか。

○どこの計画でも重点をどう扱うかと同じような議論になる。ひとつの柱はまちづくりの方針があって、4つの都市像があって、45の施策があるという骨格があって、そこから重点課題や重点戦略が抽出されてきてつながっているという基本構造がある。

○重点戦略の重点という意味合いには、いくつか考え方はある。45の施策の中で主に頑張らなければいけないのを抜き出したという意味もあり得るし、個々の45施策を足し合わせただけではいけないので、むしろつなぐことに意味があるという意味での重点という意味合いもある。

○交通政策全体としては、自動車から公共交通機関や自転車、歩行者へという大きな流れが一方であるが、施策26では、自転車の総量規制という言葉を出している。見方によっては、むしろ自転車の総量抑制のほうが目立って、本当に施策の優先順位を考えた時に自転車の総量規制をここに書いた方がよいのか疑問である。

○ある意味での本来の戦略として、名古屋をどういう都市にしたいかの戦略がない。抱えている課題への対応という意味の戦略は出ているが、都市づくりの戦略という意味では、まだ書き切れていない。

- 施策23の展開3に「農のある暮らしづくり」とあるが、市民農園しか書いていない。市民農地は個人ベースでは地産地消かもしれないが、よく言うところの地産地消とつながらないし、もっと手前のところで、名古屋には農地もきちんとある。それを農と言いながら、全部市民農園のところに押し込んでしまっている。
- コンパクトシティにしようとしても、周辺部の土地利用は何十年と掛けないと変えていけない。でも、何十年先には周辺部はこういう土地利用にシフトしていくと、それを目指して10年単位でステップを切っていくということをどこかで見せておかないと、10年のステップも切れないし、3年のステップは切れない。
- すごく大事な言葉も出ているが、よく見ると相矛盾している。結局これとこれと言っていることは違うけれども、足し合わせると名古屋はどちらを向くのが見えなかったりというところがある。
- 施策ページにあるめざす姿がどこの時点を言っているのか。施策26のタイトルとめざす姿が全く同じようなことで、めざす姿に何を書こうとしているかが見えないし、施策のタイトルをそのまま書いているものもかなり多い。全く同じ文言のところもある。
- めざす姿は、ゴールとしての、何年か後に、例えば5年後なのか、それが10年後なのかといった設定をきちんとした方が良い。ある時にこうあってほしいというのを書くのであれば、そういう書き方にしていけないといけないものが、すごく曖昧になっている。
- めざす姿が大体何年後かで、成果指標も全部30年度で区切っているが、設定の置き方がこれで良いのかどうかということにもなる。
- 書き方が抽象的な面もある。5年後にしては、普及に努めるとか何々を推進しようとして、とても漠然として、15年後でも良いぐらいの書き方である。5年ぐらいのレベルであれば、もう少し具体的に書けるところがあるのではないかな。
- 例えば施策27では「整備をすすめます」とあるが、何の整備を進めるのか。「普及につとめます」は、何の普及なのか。「向上につとめます」「一層の向上に取り組みます」は、具体的にどういうことか。何か具体的に書けるようなことも、具体的なことが何もないところもある。施策によってあるところもある。
- 成果指標については、意識調査的なものになっているが、それでは5年では見えないような、変わらないような指標ではないか。市民アンケートでそう感じているということ調査しても、5年後ぐらいではあまり変わらないのではないかな。
- 中間案の24ページの重点戦略1の③に地域における助け合いの仕組みを進めましようとして書いてある。これはそのとおりで大事だけれども、地域で子育て中の親や高齢者、障害者が孤立しないようなまちはどのようなまちなのか。
- それはおそらく駅前に30階建ての高層マンションがあるまちではない可能性が高い。片方では駅そばで、駅に集約的に人を住ませようとしているが、そこの住まいの暮ら

し方は、別のところに書いてある。高層マンションを目指すなら、そこに最初からコミュニティの機能を盛り込めるソフトとハードを必ず名古屋市は入れる、場合によっては入れさせるということがまさに戦略である。

- 個々に書いてあることは確かに各局室で推進していることで、強弱はあってもまちどうなるかということは全然書いていない。これを足し合わせたときにどうなのか。それがまちの都市像、ある意味で暮らし方、暮らしの姿のようなものになる。それは個々の施策でどう書くかとなると議論しにくい。
- 施策16の関連する個別計画に業務継続計画が載っているが、やはり南海トラフ巨大地震が来るという前提で考えると、起きた後どうするか。復興、最近の言葉でいうとレジリエンスである。迅速に回復できる能力を高めておくことも大事ではないか。
- 施策35については、「歴史・文化を活用する」という言い方ではなく、「歴史的・文化的資源を活用する」かもしれない。施策37では、水辺景観というのも良いのではないか。
- 施策38で「観光・コンベンション」と一括りになっているが、もう少しコンベンションの先に何があるのか、要は何が実現されると良いのか。それは施策40の次世代産業や、この地域のものづくりの次の産業とは何なのかということを考えたり、持ってきたりするためのコンベンションやMICEというように、もう少し掘り下げられないと、結局今までと同じことをやり続けることになりそうである。
- 施策40の「次世代産業を育成・支援します」には、航空宇宙産業は書いてあるがこれで良いのか。育成・支援するというのも、何となく今していることそのままではないか。
- 人と人が会うということがないと、なかなか新しい産業の芽は見えてこなくて、そういうことを考えるためのプラットフォームやコンソーシアムといった、物理的な場ではなくて、人と人が意見交換、知識を交換するような場を作らなくてはいけないのではないか。そういうことがあまり見当たらない。このままだと同じことの繰り返しになるのではないか。
- 施策22について、全体会で名古屋港の話が出ていたが、伊勢湾に対して一番負荷を与えている名古屋市民から見て、海の意識がすごく弱い。伊勢湾の再生に名古屋市が関わらなければいけないのは明白である。施策22に伊勢湾の環境改善という、「伊勢湾」という言葉がどこかに出たら良い。
- 施策23では、本来農業にもきちんと光を当てた方が良いということがあるし、展開4に生物多様性とあるが、ここに書いてあるような、貴重な自然を守って次世代に継承するための自然の調査で生物多様性になるのか、少し物足りない。
- 施策24については、低炭素都市2050なごや戦略で駅そば生活圏という考え方を出してからもう随分になる。都市計画マスタープランもそうである、検討中となっているけれども、どのように何が検討されているのかよく分からないが、この中身が見えてく

るような方向を出さないと、なかなか先へ進めない。

- 施策26では、駐車場の割引サービスはあるけれども、駐輪場の割引サービスを持っている店は少ないし、名駅の周辺の店でも、駐車場は1時間無料とあるが、駐輪場の無料券を出している店は少ない。コミュニティサイクルはもちろん大事だが、自転車をもっと活用するというトーンがもう少しあった方が良い。
- 施策27について、福祉の先進都市の北欧では、別にバスは全部ノンステップではない。何が優れているかというと、障害者が外出する時には公共交通機関と同じ値段でリフト付のバスやタクシーに乗れるようなソフトでカバーしている。段差だけに目を向けるのではなく、違うアプローチの仕方も合わせてあれば良い。
- 施策28の展開1に「ライフスタイルやライフステージに応じた適切な住まいの確保」とあるが、住み替えをきちんと都市は考えていけないといけなくて、少し変わりつつあるが、日本はどうしても住み替えがすごくしにくいようだ。ハードとソフト両方で住み替えをうまく誘導していける柱があったらすごく良い。
- 施策31には「3Rの推進」とあるが、結局、3つのRの中の最初のリデュース、発生抑制のところは、包装容器、レジ袋の話になってしまっているの、本来の発生抑制に踏み込んだ施策に乗り出すべきである。
- 伊勢湾のことも含めた流域を考えると、おいしい水を提供するという施策20もあるが、我々が使った水あるいは下流側になる水をどう管理するかということも、例えばこの中にあるだけでも良いのではないかな。
- 施策の展開には、現状・課題を解決するといった表現ではなく、もう少し具体的にしていきたい。しかも、今やっている取り組みではなく、ひとつずつでも良いので、新しいアイデアのような、何か新しさが見えるものがある程度入ってくると良いのではないかな。
- 指標に関しては、5年間という意識が変わるのは難しいので、個々に具体的すぎると、逆にそれに引っ張られてしまうということもあるので難しいが、客観指標を中心にしてはどうか。
- 意識調査を毎年実施するというのであれば、45項目に対してどこを重点にすべきかという調査をしてはどうか。現状に対して5年後、10年後はまた別のところへ重点が移動したという、45の施策の関係性が見えてくるようなまとめ方が意識調査としては良いのではないかな。
- 追加するものとしては、関連部門があるだろうが、部門ありきで立ち上がっているものと、ないものもあるかもしれないし、複数の部門がぶら下がっているものもあるので、関連部門や団体をここに載せてはどうか。
- 施策28の良質な住まいづくりはハウスメーカーも取り組むことで、名古屋市としての取り組みがどこなのかが分からない。市営住宅なのか、民間が建てる戸建てやマンション

ョンをどう支援するという話なのか。道路や公共交通といったインフラ関係は分かるが、住まいは名古屋市が建てる市営住宅に関してという意味で捉えれば良いのか。

○直接住宅を作ることに関わるのではないので、「住まいの質の向上を支援し」というのは何をするのがよく見えない。名古屋市の努力が見えなくなって、ハウスメーカーの努力が成果指標で測られるようでは評価にならなくなってしまったので、ここで名古屋市としての施策をきちんと評価するようにしないといけない。

○市民満足度のようなものを指標としてどう扱ったら良いかというのは結構議論になる。ひとつの整理としては、ある種のアウトプットとアウトカムと分けて考えた時に、市民満足度はアウトカムだと捉えるべきである。行政の本来の目的としては、ひとつは市民サービスの向上なのだから市民の満足度で測るべきだともいえる。

○施策2でかかりつけ医を持つことを普及するとあるが、これは本当にそうなのか。よく病院へ行く人は結果的にかかりつけ医がいるが、病院へ行かない人がかかりつけ医を持つにはどうしたら良いのかという話がある。

○施策10の展開3について、ここでは教員のマンパワーの拡大や資質の向上と、地域に開かれ信頼される学校づくりとあるが、やはり教育環境と言う時には、良い意味での地域との連携を図り、学校が全部抱え込まないようにして、地域で子供を育てるという方向で書けると良い。

○戦略1（1）に「女性の活躍支援」には、今やっている事業として、女性のための総合相談の実施と男女平等参画推進センターでのセミナーでは、全然重点的でない。今やっている相談とセミナーで本当に十分かという議論をどこでするのか。子育てと同じように、これもすごく大きなテーマであるから、どう施策を組み立てるのか。

○耐震化については、名古屋市は個人の住宅の耐震化改修に、他都市では絶対できないぐらい手厚い補助を出している。なぜそうしているかといったら、仮設住宅を建てるコストに比べたら、手厚く耐震補助を出した方がずっと良いという明確なポリシーがあったと聞いている。せっかくだったらそういうポリシーをもう少し強調したら良い。

○名古屋に住んでいない人がこの計画を見た時に、こんなことをやっているのだから、引っ越したいと思えるようになってほしい。他の都市にはないのではないかというようなことが、他にも随所にあって、目玉、アピールポイントとして見えるようにすると良い。

○鍋屋上野浄水場の緩速ろ過のような、日本の大都市の中で誇れるものをPRしたら良いのではないか。緩速ろ過で水が飲めるのは札幌と名古屋だけだろう。

○名古屋に住めばこう素晴らしいということを、例えば生活者の切り口で書いてみたり、子育てという意味で束ねてストーリーをつけて、そういうものを別途作っていけば良いかもしれない。

○多分強調すべきアピールポイントは、これから作るというよりもあるのではないか、

今あるもので十分かもしれない。子育てと災害と国際の3つ戦略に対して、それぞれポイントを盛り込んで別のイメージ化すると良い。生活者にとってはこれが魅力的と思うようなイメージ図のようなものを用意すると良いかもしれない。

- 他都市では、施策について市の役割、事業者の役割、市民の役割とそれぞれにつけているところもあるが、それも全部書くのは大変手間がかかるし、書いても、そこに事業者の役割と書いたから事業者が本当にやるかといったら、それはまた違う話なので、書いたからというものでもないかもしれない。
- 調整という言葉は、どうも本当に調整でしかなくて、前へ進む感じがしない。市が前へどう進んでいくのか、そういう戦略を作る場所や、自治体シンクタンクがあっても良い。
- 広域行政については、他市町村に迷惑をかけないようなものなのか、もう少し逆の積極的なものなのか。中間案には「他自治体との連携を推進し、広域的な行政課題」とあり、ここはすごく大事で、名古屋が果たすべきひとつの役割である。そういうことはなかなか個々の施策には書きにくいだろう。
- 都市間競争の都市は、名古屋とどこのイメージなのか。名古屋と横浜ならば確かに頑張れば良いが、名古屋と隣の市町村で競争したら、名古屋のひとり勝ちではないかと言われてしまう。その意味では、少し広域の中で名古屋が果たすべき役割をきちんと果たしたり、むしろ応援するというニュアンスになるだろう。